

金曜スペシャル！
Friday Special!

リーダーズ・フォーラム
Leaders' Forum



2019. 05. 10. Fri



目次

<日本語>

音声認識アプリ UD トーク

これからのリーダーシップ

スピーチ 「リーダーシップの青い鳥」

女性リーダーシップ

補足資料 Q & A

大会委員長挨拶

あとがき

Contents

<English>

Speech recognition application “UD talk” 3

Leadership in future 4

Speech “A blue bird of leadership” 21

Women's Leadership 23

Appendix – Q&A 35

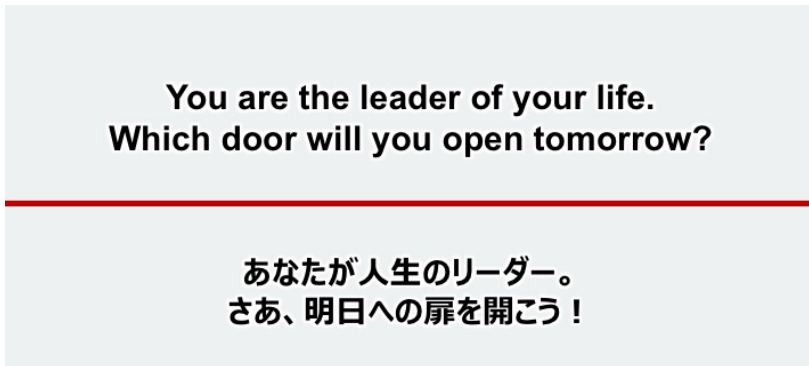
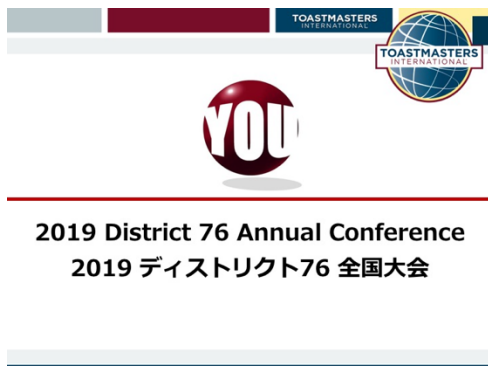
Key message from Conference Chair 50

Post scripts 51



音声認識アプリ UD トーク

Speech recognition application “UD talk”



2019 年 5 月 10 日金曜日 19:30-21:30 船堀タワーホール桃源の間にて行われたリーダーズ・フォーラム第一部「これからのリーダーシップ」、スピーチ「リーダーシップの青い鳥」および第二部「Women's Leadership」では、音声認識アプリ UD トークを活用し、発言内容をリアルタイムに、日本語・英語でテキスト化して、画面に投影しました。この技術は、新橋/三鷹ビジネス TMC 所属の酒井一樹さんの全面協力で実現しました。

第一部「これからのリーダーシップ」では、登壇者の皆様のご承諾により、当日の生の声を音声認識とご本人の確認作業により皆様にご確認いただけます。臨場感あふれる内容をお楽しみください。

総合司会：





これからのリーダーシップ

<タカさん>

皆様こんばんはようこそ金曜スペシャルリーダーズフォーラムにお越しくださいました。

ありがとうございます。

本日は、若いリーダー、それから経験豊富なリーダー。

10名のパネルディスカッション、そしてスピーチいろいろ混ぜながらですね、リーダーシップについて皆さんと一緒に学んで行きたいと思います。

まず最初のコーナーは日本語のパネルディスカッションです。

日本語のパネルディスカッションのモデレーターは、よろしいですか。

エリア 22 ディレクター桃井さんです。

どうぞ大きな拍手でお迎えください！



<ももさん>

皆さんこんばんわぁ。

一部は「これからのリーダーシップ」ということで、親しみやすく手の届きそうな若手のリーダー5人をご紹介します。

今日のリーダーの共通点は全国大会役割を経験されているということです。

では皆さん、どうぞ。

大きな拍手でお迎えください。

そうやっていきなりなんですけど座って話させていただきます。

まず、お1人ずつ自己紹介をお願いします。

マイコさんお願いします。



TOASTMASTERS
INTERNATIONAL

ふじわら まいこ 藤原 麻衣子さん



<マイコさん>

皆さんこんばんは。Amazon トーストマスターズクラブの藤原麻衣子と申します。私はもともと2012年に東京メトロトーストマスターズクラブの方に入会しまして、今回このディスカッションに参加するということで、振り返ってみました。

まず東京メトロの方で入会してから、すぐに日韓合同例会というのに関わって、今までずっと続いています。2013年にVPM、2015年に会長の方を務めさせていただきました。その後、何らかの成り行きからエリアディレクターを、ディビジョンCでさせていただきました。そのときはエリア31ということでパイオニアですとか、あとキーフォース、フォワードが所属しているエリアで務めさせていただいていました。その後、2017年の3月ぐらいから、ちょうど1年前のこの大会の準備ということで、コア・チームに関わらせていただきました、無事に去年大会ができたというような感じです。

TOASTMASTERS
INTERNATIONAL

History in Toastmasters Club

Maiko Fujiwara, ACB, ALB

2012.8- Joined Tokyo Metropolitan Toastmasters Club
2012.12. 1st Japan-Korea Joint meeting
2013.7- VPM for Tokyo Metropolitan Toastmasters Club
2015.7- President for Tokyo Metropolitan Toastmasters Club
2016. Aera31 director (Pioneer, Keyforce, Forward)
2017.3- Core team member for 2018 district76 contest
2017.7- Sponsor for Amazon Toastmasters Club
2018.3. Chartered Amazon Toastmasters Club



ちょうど同じ時期に私自身が Amazon の方に転職をしまして、転職してすぐに、どうもその中でクラブを立ち上げてほしいという依頼、おそらくその当時の Club Growth ディレクターの方だったと思うんですけども、連絡を受けまして、そこでアマゾンの方で例会などをしながら、メンバーを集めて、無事に 20 人集まりまして、昨年 3 月にチャーターをしました。チャーターしてからは、もともと入会していた東京メトロの方はやめてしまって、現在は Amazon トーストマスターズのみ所属しています。今日はよろしくお願いいたします。

<ももさん>

ありがとうございました。

ではキイチロウさんお願いします。



<キイチロウさん>

皆さんこんばんは。

赤羽バイリンガルトーストマスターズクラブの齊藤と申します。

今日は唯一の男性で登壇しているということで、大変大変恐縮で、大変不安で、よろしくお願いいたします。

私の経歴を少し話させていただきたいと思います。

私は今所属しているのが赤羽トーストマスターズクラブ、日吉トーストマスターズクラブ、横浜ニーハオトーストマスターズクラブと馬車道トーストマスターズクラブです。

普段の仕事はエンジニアでして、普段は画像処理の R&D をしているので、黙々とパソコンに向かっているような仕事をずっとしていたんですが、トーストマスターズに入っているいろいろなことに目覚めまして、今年から会社ではオープンイノベーションの推進の担当ということになってキャリアもチェンジしたというような形になっています。





齊藤 樹一郎(Kiichiro Saito)

所属クラブ：赤羽、日吉、横浜您好、馬車道

仕事：
画像処理R&D・量産統計シミュレーション(～2018)
オープンイノベーション推進(2019～)

トースト歴：
2009年 赤羽TMC入会
先輩の渡辺さんにあちこち連れていかれる
(台湾、英語勉強会、中国語勉強会、皇居ジョギング同好会 etc...)

2013-2014年 埼玉春季大会メンバー、赤羽TMC会長
鈴木さん、小原さんの抜群のリーダーシップの下で良い思い出。

2016-2017年 エリア52ディレクター
温和なメンバーによる平和な運営でした。

トーストマスターズに入会したのは、2009 年ですね。

先輩の渡辺さんという方に、もういろんなところに連れてかれまして、台湾だったり英語の勉強会だったりジョギングだったり、それまでは仕事が忙しいと週末は寝て暮らすような生活だったんですけど、ガラッと生活が変わったということになりました。

その後ですね 2014 年に、秋季大会のメンバーになったのと同時に赤羽トーストマスターズクラブの会長もやっています。

このときはですね、鈴木文三さん小原さんの抜群のリーダーシップもあってなかなか大変は大変だったんですけど良い思い出として活動ができました。

あと 2015 年はエリアディレクターで、みんな穏やかな方ばかりだったので大変平和なエリア分けができたという感じです。

<ももさん>

はい。ありがとうございました。

では次。ちゃっきーさんお願いします。



たかやま ちあき
高山 千晶さん



<ちゃっきーさん>

皆さんこんばんは。

吉祥寺トーストマスターズクラブに所属しています、高山千晶と申します。

私は 2010 年の秋に吉祥寺クラブに入会して以来、ずっとメンバーを続けています。

クラブ役員には 7 つのポストがありますが、そのうち、会長と教育担当を含む 5 つの役割をやらせていただきました。これは会長に就任した日に、皆さんメンバーに向かって、Cozy で Colorful なクラブにしましょう、というスピーチをしている写真です。



所属クラブは吉祥寺だけなんですけれども、これまでにコスモス TMC や新橋のプレゼンテーション TMC などにも参加をしていました。クラブの立ち上げの経験はまだないんですけれども、今新宿に勤務をしているので新宿バイリンガル TMC のサポーターとして例会に参加しています。

全国大会の経験で言いますと、2014 年ユーモアスピーチコンテストの英語コンテストに司会として参加しました。

それから、2017 年秋の全国大会（ほらふき）のときにワークショップのロジスティックリーダーとしての役割をいただきました。

ここに座っていらっしゃる皆さんは、全国大会で何度もお見かけしており、リーダーとして高い能力発揮されてる方だというイメージが私の中で強くありました。

その中で私も出ていいのかなという不安はあったんですけど、「高山さん大丈夫だから気楽にやってね。」と言っていただきました。

大会初日ですので、ぜひ皆さんがリラックスして楽しくお話を聞けるようなセッションにできればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<ももさん>

ありがとうございます。

友香さんお願いします。



TOASTMASTERS
INTERNATIONAL

きしがみ ゆか 岸上 友香さん



<ゆかさん>

コスモストーマスターズクラブの岸上友香と申します、どうぞよろしくお願いいたします。私も高山さんと同じく登壇者の皆さん素晴らしいので、私がここに座っていていいのかなというふうに、ちょっと不安と、あとちょっとワクワクする気持ちで来たんですけど、私も「前座だから、女子会みたいな感じでやればいいよ。」というふうに言われたので、楽しく、きょう皆さんと時間を過ごしたいなと思っています。

私の自己紹介なんですけども、トーストマスターズに2013年に入会しました。赤羽バイリンガルトーストマスターズクラブとあと飯田橋に入会をしました。今は二つともやめまして、今現在はコスモストーマスターズクラブと、あと起ち上げ中の山梨の甲府トーストマスターズクラブの立ち上げに関わっています。

クラブ役員としては会長を2回担当させていただいたのと、あと District オフィサーとしてはエリアディレクターを1回させていただきました。

全国大会なんですけども、皆さんかなり全国大会で尽力されてると思うんですけど、私は入会1年目に、受付の右も左も分からない段階で受付をやってくれと言われて、受付の、本当に当日の補助を最初にやったのがきっかけで。その次の2014年、ユーモア大会で、また当日の受付と、後はワークショップの当日も、担当させていただきました。

間があきまして、2017年の秋季大会英語コンテストの審査委員長を担当させていただきました。よろしくお願いします。

<ももさん>

ありがとうございます、ちはさんお願いします。

<ちはさん>

皆さん、こんばんは。

目黒トーストマスターズクラブの梶原千春と申します。



TOASTMASTERS
INTERNATIONAL

かじわら ちはる 梶原 千春さん



私は入会は 2011 年 7 月ということで、8 年目になります。

入会当初は名古屋の栄クラブ、その後、東京に引っ越してきて、今は目黒クラブに所属をしています。クラブ役員経験は会長と会計以外の役割はすべて、あと数年前に Area Director も経験しています。

TOASTMASTERS
INTERNATIONAL

Chiharu Kajiwara (Meguro TMC)

- ▶ Membership date: July 2011 ~
 - ▶ 2015-16 Area 62 Director
 - ▶ Conference Committee:
 - ◎2013年春 名古屋大会：日本語インタビュアー 及び各チームの人員管理
 - ◎2014年秋 東京（代々木）大会：受付・宿泊・金曜日ツアー担当
 - ◎2015年春 東京（代々木）代々木大会：受付・宿泊担当
 - ◎2016年春 大阪大会：受付・土曜日（裏）観光・party担当
 - 2016年秋 広島大会：受付Support
 - ◎2017年秋 東京（日経ホール）大会：受付担当
 - ◎2018年春 東京（一橋ホール）大会：会計・受付担当
 - 2019年春 東京（船場）大会：受付Support
- ※ ◎はガッツリ、実行委員をやった年

また私の主な役割としては、2013 年から全国大会実行委員に関わってきました。これまで9大会に関わっています。その中で特に受付業務という裏方業務に注力してきました。

受付というと、今回皆さんが大会の申込をする際にウェブからお申込みいただいたと思いますが、そのウェブのサイトの申込画面の設計・問い合わせ対応、名札作成をやってきました。

今回、過去のそれぞれの大会で様々なことで関わった方々、まさにいろんな困難を共に乗り越えてきた戦友たちと今日、このステージにいれることで、とても嬉しい気持ちです。

どうぞよろしくお願いします。



<ももさん>

ありがとうございます。

マイコさん。

TMC の活動の中で得たことは何ですか。

<マイコさん>

ありがとうございます。

2012 年に、私の場合は上司の勧めでトーストマスターズに入って、こんなに長く続けているなんて思わなかったです。

けれどもやっぱり続けていたのは、いろいろな、嬉しいことがあったからだと思っていますが、その中の一つで、先ほどの自己紹介でもお話しましたが、日韓の合同例会に関われたのが、私にとっては非常によかったというか、嬉しかったことかなと思っています。合同例会、私が最初に入会していた東京メトロトーストマスターズクラブとあと、韓国の JETM というクラブが国を越えて合同例会というのを年 2 回行っていて、それが 2012 年から現在に至るまで、今年は 13 回目を行いました。



<ももさん>

13 回目なんですね。

私知らなかったんですけど、1 年に 2 回、続けてこられたってことですね？

<マイコさん>

最初の頃は年二回で、最近は毎年 2 回はちょっと厳しいね、ということで年に 1 回になってるんですけども、この 7 年間、私がちょうど入会してから始まって 7 年間続いてきています。

今その 13 回続けてこられたっていうのはすごい嬉しいことの一つなんですけれども、私がももさんのトーストマスターズに入る前から、何か国を超えて、国と国を結ぶようなブリッジとなることをしたいなと思っていて、この日韓合同例会を通して、なんか自然と、国と国を超えて、メンバーの間での絆が出来上がって、日本と韓国のブリッジになれたのかなっていうところが非常にうれしいなというふうに思っています。



<ももさん>

もう1個質問に入っていきますね。

トーストマスターズ以外の趣味や打ち込んでいることはありますか。

<マイコさん>

はい。最近ちょっとトーストマスターズにあまり時間を使っていないおかげというか、サルサに割と時間を使っていますね。そうですね。ラテン系の踊りですね。

<ももさん>

どんな感じで踊るんですか。

<マイコさん>

どんな感じかは、結構ストレス発散にいいかなというふうに思いながら踊っています。

ちょっと仕事が忙しくてストレスを感じる時に、サルサを踊ると、だいたいその動きに集中して何も考えなくていいので、すごく気分転換になってだんだんと頻度が高くなりました。もともとスペイン語が好きでスペイン語を勉強していたのがきっかけで始めたんですけども。ストレス発散のために踊るみたいな感じでしたが、ただ、何かストレス発散だけではなくて、実は私は踊りながらリーダーシップとかちょっと考えたりしていたんですね。

<ももさん>

踊りながら、リーダーシップっていうのは、どういうふうにでしょう。

<マイコさん>

サルサは男性と女性と一緒に踊るんですけども、男性が必ずリーダーで女性が必ずフォロワーなんですね。そういうのって、ふだんの仕事の世界とかトーストマスターズの世界では、ないと思うんですよ。絶対に男性がリーダーで女性がフォロワーっていうのは。常にフォロワーの立場からリーダーを見ていたら、リーダーの力量次第でフォロワーになる女性の踊りっていうのが全然変わってくる。なので、ビジネスでもきつとリーダーの力量次第で周りにいる人たちのフォロワーというのかわかんないですけども、その人の力量とか、出せる力っていうのが全然変わってくるんだなと思います。

<ももさん>

リーダー次第ってことで

<マイコさん>

すごくそれがありますね。それがサルサの面白いところだなと思っています。

<ももさん>

ありがとうございます。では次は樹一郎さん、あなたが最もトーストマスターズで影響を受けた出来事は？

<キイチロウさん>

先ほどの紹介にもあったんですが、お話をさせていただきたいんですけども。

入会していきなり私を捕まえた先輩、渡辺先輩という方がいまして。



<ももさん>

はい、今日いますか。

<キイチロウさん>

今はいらっしゃらないんですが、渡辺先輩に捕まえられて、それまでは週末はもう疲れて寝てるだけの生活だったのが、皇居に連れて行ってもらってジョギングしろと言われてジョギングさせてもらったりとか、台北に連れて行かれて台北マラソンで走るぞっていうので走らされたりとかです。

そういった形でもともとマラソンだったり、あと中国語だったり特に興味なかったんですけど。先輩に連れていかれてやるうちに仲間ができて、頑張るようになったというのでやっぱり先輩に連れていかれて、それが今に繋がってって影響を受けています。すごいリーダーシップを発揮する先輩です。

そうですね、非常に強引な方なんですけど、でもすごく楽しくて私はどっちかっていうと、人についていくタイプなので非常に嬉しかったですね。

<ももさん>

次の質問は、年上の人たちに動いてもらうのに、どんな苦労がありましたか。

<キイチロウさん>

年上の方と一緒に仕事するのは僕はあまり苦に感じたことがなくて、年上の方は、アドバイスいただいたことに対して、きちんとした回答すると、いつも私が返した以上のサポートをしてくださることが多く、実は今、私がいる職場も、どっちかというシニアの方が多くて結構年配の方と一緒に仕事をすることが多いんですけども、やっぱりアドバイスを聞き入れて、非常に参考になるところもあるし。

あと経験に基づいてサポートしてくれるということで、私は年上の方とそんなに苦労した経験はなくて、むしろ口を出してくれない、ほっとかれる方がすごい心配になる方なので、どちらかという、声をかけてくださる先輩は非常にありがたく思います。





<ももさん>

トーストマスターズ以外の趣味や打ち込んでいることはありますか。

<キイチロウさん>

そうですね最近ピアノとか楽器をやっています。

もともと高校生の頃から楽器とか好きだったんですけど仕事をする初めてあんまりやらなくなってしまって、でもトーストマスターズをやるようになってから、楽器やる人が非常に多いので、その影響を受けてまたピアノとかやるようになりました。

特にピアノは、人の前で演奏するときに最初から最後まで、間違えないように演奏しようとするすごく集中力を使うので普通の普通の仕事と比べると、違う神経を使うというか、リアルタイムにずっと集中力を保つというところで、スピーチも似たところがあると思うんですけども。一つ間違えないぞという覚悟で、その辺が面白いですね。

<ももさん>

ありがとうございました。

では、チャッキーさんに質問なんですけど、もしあなたが入会 1 年目の自分に会ってアドバイスをしあげたなら何て伝えますか。

<ちゃっきーさん>

リーダーシップがテーマなので、それで考えますと、ちょうど今クラブの次期役員候補の方に声をかけてらっしゃったりとか、選挙管理委員会として動いていらっしゃる方、苦勞していらっしゃる方がいらっしゃると思います。実は私もその 1 人なのですが、私自身が初めてクラブ役員を経験したのが入会して 1 年経つか経たないくらいでした。

もし当時の自分に今の私が声をかけてあげるとすれば、「少しでも自分がやってみたいと思ったら、自分に適性や能力があるか関係なしに、ぜひやってみて！」と言いたいと思います。

経験が少なかったり、トーストマスターズクラブのことをよく知らないとなかなかいきなり役員だったり、何か全国大会で役割をやったり、また何かイベントで運営に携わったりというのはすごくハードルが高く感じて尻込みしてしまう人もいます。

私自身、特にそれが強くて、半歩下がってしまうところがありました。

ですが少しでも興味があるな、難しいそうだけどちょっと背伸びしようかなっていう気持ちがあれば遅すぎることも早すぎることもなくて、やりたいと思ったその時がベストタイミングなんじゃないかなと思います。

なので、ぜひ入会したばかりの方で、もっとトーストのことを知りたいな、関わりたいなと思っている方がいらっしゃれば、ぜひこの言葉を掛けたいと思います。

ちょっと余談になるんですけど、皆さん Pathways は進めてらっしゃいますか。

その中のレベル 2 で Understanding Your Leadership Style というのがあります。自分のリーダーシップスタイルを理解する。

最近このスピーチをしたんですけども。

トーストはよく「パン教室ですか」なんて質問を受けますが、そうじゃないですね、乾杯のトーストから来ています。

ですが私自身、フレンチトーストを作るかのようにたくさんのことを吸収して、さまざまな経験から価値を得ていく、それがトーストマスターズなんじゃないかなという持論があります。

なので、ぜひフレンチトーストのようにたくさんの体験を吸い込んで、皆さんにたくさんの学びを得ていただきたいと思います。

<ももさん>

もう一つ質問したいんですけど、アップルのスティーブ・ジョブズは創造的なアイデアを生み出すために散歩することを習慣にしていたそうです。

トーストマスターズで役に立つあなたの習慣を、ちゃっきーさんの習慣を教えてください。



<ちゃっきーさん>

はい。全くジョブズには及ばない習慣ですけれども、例会当日、みなさんコメントシートを準備スピーカーに対して書くと思いますが、スピーカー以外の役割の方に対して書いたことはありますか？私はいろんな方に対してレコグニションするというのを意識して毎回の例会に参加しています。

例会の中だけだと時間がなくて、例えば TMOD の人、テーブルトピックスマスターの人、また入会して初めて役割をこなした人に対して、声掛けがなかなかできないときがあるんですが、例会が終わった後に直接声をかけたりですとか、メールでもメッセージでも何でもいいので、こういうところがよかったよとか、こういう部分が勉強になりましたという言葉がけを意識してやるようにしています。

そうすることで私自身もそういうメッセージをもらえると嬉しいですし、受け取った人は自分のこと見てくれてるんだなあっていうふうに感じてモチベーションになるんじゃないかなと思うんですね。

なので、スピーチコンテストに参加したときはスピーカーに対するコメントはもちろん、コミッティとしてこの大会の運営にかかわっている方々に対しても、レコグニションしてみただけなら嬉しいです。私も書き込んで封筒に入れるようにしたいと思います。これが私の習慣と言っていीかわからないですけれども、毎回の活動で意識していることです。

<ももさん>

うれしいですね。コメントしようと思います。ありがとうございます。

では次は友香さんにボタンタッチしていただいて。

質問は、トーストマスターであることでどんなメリットがありましたか。

<ゆかさん>

はい、質問ありがとうございます。

ちなみに会場の皆さんの中でトーストマスターズのメンバーではない方、手を上げていただいてよろしいでしょうか。いらっしゃらない。いや、失礼いたしました。少し、少し、ちらほらいらっしゃるということで、ありがとうございます。ちなみに、5年以上やっていますという方いらっしゃいますか。おー結構多いんですね。なるほどありがとうございます。

皆さんトーストを長く続けていらっしゃる方が結構多いんだなと。

はいわかりました、ありがとうございます。

トーストのメリットも、皆さんそれぞれきついろいろ頭の中でお持ちだと思うんですけど、私が一番のメリットだなと感じるのは、もちろんたくさんあると思うんですけど、例えば素敵なメンバーに恵まれているだとか、あとはプロジェクトや教育アワードがしっかりしてるですとか、あとは例会や、クラブ内外のイベントがあり、いろいろあると思うんですけど、一番は練習できる機会が常にあるっていう、そこが一番のメリットだな、と私自身は思っています。

よくトーストマスターズは失敗を恐れずに挑戦できる。もちろん失敗が前提ではないんですけども、失敗を恐れずに、ためらわずに、トライしていける環境があるっていうことはすごい。すばらしいなと。5年ぐらい、入会して五年ぐらい経つんですけど、思っています。

例えばクラブ会長したときの経験なんですけど、本当に自分より年上だったり、あとは年下だったり。あとは職業が全然違う方だとか、考えが全然違う人と、一緒にチームワークをしていくことがあると思うんですけど。会社と本当に全然違う環境で、しかも自分の部下ではないから、もちろん何もありませんよ。お給料みんなもらってるわけではない中でチームワークするっていうのもある意味仕事よりちょっと難しいというか、モチベーションを保つという意味では仕事より難しいこともあるな、と感じますので、本当にそれいろんな人と共にワークする練習ができたことが大きなメリットだなんて感じます。



<ももさん>

はい。もう1問。

これからの10年後、あなたはこうなっていたいですか。

<ゆかささん>

事前の質問の回答では、ちょっと、歌って踊れるノリノリなリーダーになりたい、というふうに書いてあると、半分冗談ですけど半分本気で思っていて、先ほどマイコさんのお話で、サルサを踊ってるときにリーダーシップを感じた、っていうふうにおっしゃったと思うんですけど、私ゆるゆるとゴスペルが好きで、本当にゆるゆるとやってるんですけども、ゴスペルを歌いながらリーダーシップを感じる、という瞬間がたまにあります。

自分の声って本当に豆粒ぐらいの小さなものなんですけど、チーム全体とあと指揮者の人と合わせて声を出すので、その隣にいる人だとか、あとちょっと遠くにいる人の声を聞きながら、自分の声を調整したりだとか、あとは指揮者を見ながら、自分はどのくらいのボリュームを出せばいいのかとか、あと表情はどうすればいいのかとか、そういうことを考えながら、歌っていくので、私もちょっと歌いながら、同じように考えることもあるんですけど。

あとそれとは別に、ノリノリでいたいというか、常にこういいねと。うん。チームのメンバーにいいね！って応援できるような、柔軟さっていうのを、もう10年後20年後も持ち続けたいなと思ってます。以上です。

<ももさん>

では、今度はさんに質問したいんですけど。

トーストマスターであることでどんなメリットがありましたか。

<くちはさん>

はい。メリットですが、もう結構皆さん、色々話していただけたので、だいぶ被るところもあるんですけど、やっぱり私は主に二つメリットがあるかなと思ってます。

一つは、友達ができたこと。すっごく、増えました。

二つ目は今回の全国大会ということもあるんですけども、この全国大会での実行委員の経験が、私の今のその本業のキャリアに活かしているなと思います。

会社ではプロジェクト単位のチームで動くことが多くて、ある日突然、いきなりその場で、プロジェクトにポンって入れて、入るところで結果出して、って言われるような感じなんです。

全国大会の実行委員をガッツリやられた方は分かると思うんですが、全国大会って、かなり的人数で動いてるんですよ。今回の大会も何人実行委員がいるのか正確にはわかんないけど、100人は軽く超えてるんじゃないですかね。しかもコアなメンバーは1年以上前から動いているはずですよ。

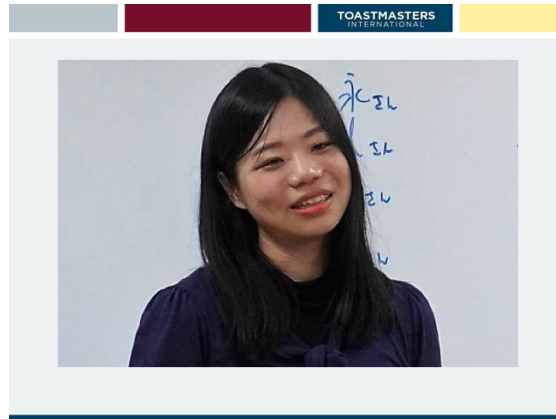
つまり何が言いたいかというと、慣れ親しんだクラブ以外の人たちとこの全国大会というプロジェクトを進めなければいけないんですよ。

クラブのメンバーって、スピーチをお互いに聞いてくれたり、飲み会をやってるから、気心知れた人たちばかりなんです。でも全国大会の実行委員で関わる人たちって、そんな気心知れた人たちばかりではないじゃないですか。時には対立や揉め事もありました。ただそんな環境の中でも同じ実行委員として、なんとかなんとか全国大会というプロジェクトを進めていかなければいけない。

これがすごく今の私のキャリアにすごく役立ってると思います。

私がすごく大事にしてる心構えっていうのが、Awayな環境で結果を出すことを重要視していきたいなって考えてるんですね。

Homeで結果を出すのは当たり前だろう、と。



ここで言う Home っていうのは TMC でいうクラブのメンバー、仕事でいうと例えば気心知れたチームメンバー。Away っていうのはトーストマスターズだと、全国大会の実行委員、仕事でいうと、いきなり入れられた難しいプロジェクトのチーム、かな、と。やっぱり慣れない環境だったり新しいことは物事のひとつひとつのハードルが高いんですよね。でもその慣れない環境、つまりアウェイで力を出せることができればきっとホームでも逆に力を 120% 出せるんじゃないかな、と思ってやってきます。(シグナルが) 赤になっちゃった。で、全国大会の運営というのはアウェイの環境なので、手取り早く慣れない環境でどう動くかを練習するいい場所なんですね。なのでぜひ実行委員やったことがない方は、ぜひ立候補して一度ちょっとやってみていいかなと思います。

<ももさん>

もう一問行きます。

どうしてトーストマスターでリーダーシップを発揮してみようと思ったのですか。

<ちはさん>

はい。全国大会でのリーダーシップといいますと、先ほども、今ちょっと(スクリーンに出て)ないけど、経歴を見ていただいたように入会して 8 年間の中で、全国大会実行委員はこれまで 9 回、いろいろ関わってきました。なぜ、そんなに何度もやってきたか。

もちろんすごく楽しかったっていうこともあるんですけども、一番の目的は全国大会を終えた後、実行委員がトーストマスターズを辞めないような仕組み作りを作りたいというのがあります。全国大会実行委委員をがっかりやられた方はご存知だと思うんですけど、一時期、全国大会を終えたあとにトーストマスターズを去る実行委員が多かった。

特に受付のようなバックオフィスの仕事って結構大変なんですね。私もかつては全国大会直前って徹夜続いたりとか、朝まで大会のための作業をして、でも仕事を休めない。

そういう時期が結構続いて。一緒にやってきた仲間も、それが辛くて、トーストマスターズが嫌になって辞めるっていう人も結構いたんですね。それを変えるためにどうしたらいいかって考えたのが、まずはこの受付システムを変えるということ。WEB での導入自体は私ではなくて、2014 年実行委員の現在ストーリーテリングクラブの児嶋くんや数年前の PR Director の田邊さん達ですけど。ただその時点でも Web での受付導入にとどまって、当日の受付に関してはアナログな状態の時期が何年も続いてしまった。それを昨年ですね、2018 年に東さんが大会委員長のとときに、QR コードでの受付、今日皆さん多分、スマホでアプリでタッチで入場できたと思うんですけども、システムを導入することによって、実行委員での受付に関する作業時間は削減されました。もししたら皆さんの中ではアプリがダウンロードできないなど苦労された方もいらっしゃるかもしれませんが、まあ大抵の方は多分簡単に入場できたんじゃないかなあ、と。



実行委の方も受付に関わることに限らずには特に徹夜することもなく、おそらく睡眠時間も十分に取れてこの大会にいろいろ挑めてるんじゃないかなと思います。
そういった受付チームの業務のフローを、昨年頑張って変えたい！という想いが、全国大会でリーダーシップを発揮させていただけたのかなと思います。

<ももさん>

ありがとうございました。

では、これからフリーディスカッションに入っていくんですけど。

私が興味あることなんですけど、リーダーとしてふさわしいと思う条件。

リーダーとしてふさわしいと思う条件。

これは、どう思いますか？もう順番関係なく、でもいいんですけど、はい。

リーダーとしてふさわしいと思う条件。はい。

<マイコさん>

ちょっと最初考えていたのは、前の会社は、すごくリーダーシップを強く押し出している会社だったんですけど、リーダーシップが何なのかという質問に対して、人事がいつも言っていた言葉がありました。「リーダーはフォロワーがいる人のことである」と。リーダーはフォロワーを作らなければいけないということを言っていて、私の中ではすごいその言葉が残っています。じゃあ、どうしたらフォロワーができるのかなって考えたときに私の中で、最近、このリーダーすごいな、この人にだったらついて行けるかなって思った人が何人かいるので、ちょっとその方のお話をしたいかなと思います。

一人目は、スペイン人の女性で、開発チームのリーダーだった方で、アマゾンの中だと私との関わりとしては昨年私が担当していたプロジェクトの開発チームのリーダーをしていてくれた方でした。結構混沌としたプロジェクトで、スケジュールも delay するし、たくさん問題があって、本当にこれ大丈夫なのかなって私はずっと思ってたんですけども。彼女はいつもこのプロジェクトは絶対に成功すると、ずっとそう言い続けていたので、それを聞いている開発メンバーとか私とかは、彼女がずっとそう言い続けてると、これは成功するんだと思ってきました。やっぱりそういう強い意志というか、そういうリーダーが打ち出していくっていうのはすごい大切なことなのかなっていうふうに思いました。

もう1人が、私が今所属している部門の部門長に当たる方でアメリカ人ですね。アメリカ人のちょっと私から見ると、近づきたい、よく言うと、すごいカリスマ的な方なんですけども。それもちょうど私が担当していたプロジェクトが終わったときに、私の方からちょっとなんか近づきたいので、なかなか話しかけたりできなかったんですけども、クリスマス会みたいのがあって、そこで何か彼の方から、「よく頑張ってくれた。すごく思った以上にうまくプロジェクトがローンチしてよかった」みたいなことを言ってくれて、それを聞いて、リーダーがちゃんとメンバーのところに降りてきてくれて、感謝の言葉、当たり前のことかもしれないんですけども、ありがとうと言われる、ちゃんとレコグニションしてくれるっていうのは、次に頑張ろうみたいな気持ちを起こすのにすごい大切なことというのを実感しました。

私自身も、そういうところを気をつけてというか、ビジョンを示すとか、ちゃんと感謝の言葉を述べるとかっていうところはしていきたいなっていうふうに思っています。

<ももさん>

リーダー像ある方。はい。はい。



<ちゃっきーさん>

さきほどのマイコさんの話の前半で、自分のやることはうまくいくという自信というか、自分に対する信頼感はすごく大事な、と私も感じています。

トーストマスターズの活動を始めてから自己肯定感に関心を持ちまして、今個人的に勉強をしているところなんですけれども。自分の好きなところだけじゃなくて、ちょっと自信がないところ、自分のちょっと嫌いなところも全部含めて一旦受け入れてあげる。そうした上で、私はこんなリーダーになりたいんだという理想を思い描いて、それに向かってやってみようという気持ちで進んでいくことがすごく大事ななと思っていて。私は今それが完璧にできているとは言えないんですけど、ただそれをやっていきたいなという気持ちでいます。自己肯定感を強く持つ。

やはりリーダー自身が自己肯定感をしっかり持っているということが、フォロワーをつけることにもなってくると思うんです。リーダーが「こうでしょうか」と不安がっていたり、なかなか旗を振れないのは、自己肯定感が低い状態。人に任せるのは大事な役割だと思うんですけど、任せっきりでそのままになってしまうのもよくないと思うので、自分が自分に自信を持てるということが大事ななと思っています。

<ももさん>

はい、友香さん。

<ゆかさん>

フォロワーとしてついていきたいって、思えるリーダーにすごい憧れてるなと思う一方で、あとは矢面に立てる。っていうのも大事な要素かなと思ってます。責任はとるから、責任は最終的な責任を取るから、枝葉の部分は任せて、責任を分けるというか、共有するっていうところも大事な。私、実はオフレコ、オフレコというか時効なんですけど。だからちょっと言っちゃうんですけど、クラブ会長してるときに、ちょっとあるメンバーをやめさせなければいけないというか、除名というか、やらなければならない瞬間に立ち会って、自分の判断とあとみんながこれっていう判断とか、ギャップになって、みんなの代わりにそれをやらなければいけないことがありまして、その経験を、結構みんなに代わって、そこは落としどころとしてやっていくってことをちょっと経験で学んだことがあったので。うん。なんでしょう。

最終的な責任というか、何を持っていたって、みんなの代わりに、例えば何かをしたりとかありがとうを言ったり謝ったりっていうこともできる、またタフさというか。うん。それも時には必要なかなと。

<ちはさん>

リーダーシップとはということで、私が憧れるリーダーというのが実は宇宙飛行士の方なんです。日本人宇宙飛行士の若田光一さんとか。そもそも私がリーダーシップということを意識し始めたの2009年にNHKで宇宙飛行士採用試験に関するドキュメンタリーがあったんですね。それを見たときに初めてリーダーシップっていうのは何なのかなという事を考えるきっかけになりました。それまでリーダーシップって、すごく特別な人だけが持つスキルなのかなと思ってたんですけど、そこで放送されてた内容では、リーダーシップとうのは、いやいやそうじゃないんだよ。普通の人でも持たなければいけないスキルというか姿勢なんだよ、ということを感じました。ちなみに宇宙飛行士で求められるリーダーシップというのが「自己管理」「チームワーク」「コミュニケーション」「チームへの配慮」「リーダーシップ」「フォロワーシップ」だそう。宇宙飛行士には、今からは私はなれないんですけど、そういうものを持っていたいなと思っています。

こういった内容をこのトーストマスターズを通じて、今後も学べていけたらいいかなと思ってます。

※ [NHKスペシャル 宇宙飛行士はこうして生まれた 密着・最終選抜試験 \[DVD\]](#)

※ [若田光一 日本人のリーダーシップ〜ドキュメント 宇宙飛行士選抜試験 II〜](#)



<ももさん>

ありがとうございました。

あと樹一郎さん残ってるんですがちょっと残念ながら、時間が来まして。

宴もたけなわなんです、これで終わらせていただきたいと思います。

ありがとうございました。タカさんお返しします。

<タカさん>

はい、桃井さんありがとうございました。

桃井さんとパネリストの皆さんに、もう一度大きな拍手をお願い致します。

TOASTMASTERS
INTERNATIONAL

休憩 Break

**コメントを
お寄せ下さい**



スピーチ；「リーダーシップの青い鳥」 松本真紀さん



<タカさん>

松本さんをご紹介します。

松本真紀さんは 2011 年立ち上げ中の目黒とビジョナリーズ・トーストマスターズ・クラブに入会されました。途中ボンジュールと二つのクラブにも在籍。今は目黒クラブで 8 年たっているそうです。クラブ役員としては会長、教育担当、会員担当、広報担当、書記などを経験されています。

2014 年日本語コンテストのファイナリストで、2018 年春の大会去年の春は総合司会も務められました。現在エリア 32 ディレクター、そして東西トーストマスターズクラブのクラブコーチをされています。

ではご紹介します。

松本真紀さんで、スピーチタイトルは「リーダーシップの青い鳥」

「リーダーシップの青い鳥」松本真紀さんです。大きな拍手をお願いします。



TOASTMASTERS
INTERNATIONAL

リーダーシップの青い鳥

<真紀さん>

みなさん、金曜日のリーダーズフォーラムにお運びいただきありがとうございます。
引き続き、女性のリーダーシップについて、お話をさせていただきたいと思います。

(スピーチ要旨)

「女性のリーダーシップとはいかなるものなのか」

仕事をしていると時々悩むことがあります。男性リーダーの在り方と女性リーダーの在り方、共通点がありつつも何か違うものも感じています。

現在、私は青少年育成に関わる事業として、中学生高校生の留学事業に携わっています。生徒との交流の中で、その指導法等々に悩むところがあり、信頼できる方や自分の祖父母の話を通じて、解決を模索してきました。そこで、様々な出来事を通して、自分の女性リーダーとしての在り方のヒントを得ました。またそれらを通じて、改めてトーストマスターズで学ぶ意義を考え、リーダーとしての在り方や個性は様々なであると、自身も成長させていただく好機となった次第です。

(以上要旨)

<タカさん>

松本真紀さんありがとうございました。

松本さんにもう一度大きな拍手をお願いいたします。



Women's leadership

Organized by TM Chris Cooper

We heard some very inspirational stories in our Women in Leadership discussion from a great lineup of panelists, made up of five Distinguished Toastmasters, three of whom were former District Directors.

The panelists entertained the audience with stories of their struggles in their professional lives and how they overcame them with determination, confidence and help from what they have gained from Toastmasters.

One particularly encouraging story was about the first Toastmasters club in Japan founded by a woman and how that founder has helped inspire dozens of other women, as well as one panelist who was encountering barriers at her job due to her being a working mother.

TM Chris Cooper
2019-2020 Division C Director elect
2018-2019 Area36 Director



RESUME of Women's Leadership Panelists

- 1) How many years have you been a Toastmaster in total?
- 2) What motivated you to join Toastmasters?
- 3) How many years have you been a leader?
- 4) What is your current management role? (How many people do you manage, what industry, what position, etc.?)
- 5) Anything else you feel would be useful for the audience to know?



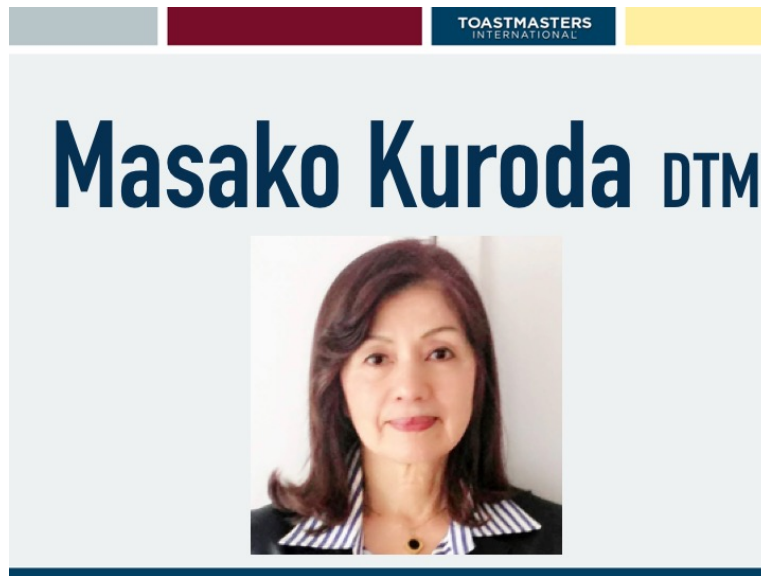
Grace Shih, DTM

1. 22 years as a Toastmaster.
2. Joined Toastmasters for a place to grow and learn
3. Been a leader for over 30 years professionally
4. Works as a Chief Executive Officer of a private clinic



Roxy Stimpson, DTM

1. 10 years plus as a Toastmaster. Started in 2003, took a break in 2008, and restarted in 2014. 10+ years.
2. Joined Toastmasters on her Mentor's recommendation.
3. Been a leader for over 20 years.
4. Works as Chief Technology Officer for D4DT (formally IOT World Labs).
5. Her first mentor said "Never refuse an opportunity to speak."



Masako Kuroda, DTM

1. 17 years as a Toastmaster.
2. Joined Toastmasters because of experience of sexual discrimination at work.
3. Not sure how to measure how long she has been a leader.
4. Works managing her own business as an aromatherapist. Running her own aromatherapy salon.



Kyoko Kitamura, DTM

1. 14 years as a Toastmaster.
2. Joined Toastmasters to improve presentation skills.
3. Been a leader for 10 years.
4. Works managing a group of university students.



Kiminari Azuma, DTM

1. 19 years as a Toastmaster.
2. Joined Toastmasters to learn Chairman Meeting skills in English
3. Has been a leader 18 years.
4. Works as an independent Career Development Advisor.
5. Would like audience to know that they should come to Tokyo Table Topics for impromptu speech skills, Utage Toastmasters even if they're tipsy and join Kagoshima Toastmasters if you live in Kagoshima.



ANSWERS of Women's Leadership Panel Questions

10 May, 2019

1) If you could go back to your 21-year old self, and give them career advice, what would you tell them?

Kiminari - Join a Toastmasters club. I joined Toastmasters club when I was 39 years old, and for the next 19 years, things I learned in Toastmasters activities have been life changing and game changing in terms of my career development. In other words, until I joined Toastmasters, I did not have opportunities in which I could learn communication and leadership in organized ways.

2) Tell us about your moment in your Toastmasters life that gave you the most joy and why?

Roxy - As the District 2 Club Growth Director, I get to witness the joy and the excitement of new fellow Toastmasters of the clubs that our district created knowing that those 20+ members' lives will change forever for the better. My other most joy is for me to have the honor to speak and meet with my fellow Toastmasters in District 76. Toastmasters empowers us to connect with like-minded professionals from different parts of the world. That is magical.

Kyoko - The 2nd club officer training, when I was a Division Governor in 2014. My Division covered from Nagoya to Shikoku and more than 80% of members were older than me. I was very busy with work and didn't have enough time to prepare for COT, but during the training all the members were cooperative and showed their enjoyment and had big smiles. I can't forget the moment.

Grace - In the summer of 2004, I teamed up with three good friends of mine in Toastmasters to provide the Youth Leadership Program to a group of 25 Senior High students in Pingtung. During the 2 months of their summer vacation, we shared what we have learned from Toastmasters about communication and leadership with these 25 youths; we helped them to conquer their stage fright and build their self-confidence. We even had the opportunity to take them to a senior high school in Kaohsiung and hold a demo meeting to present what they had learned and what they became capable of doing in front of their peers. It was truly a great encouragement to them. At the graduation ceremony, they invited their teachers, parent, and friends to witness and celebrate their achievement. Besides feeling so proud of them, the four of us truly thought that providing this program to this group of 25 outstanding youth is absolutely rewarding to us, we actually benefitted as much as, or maybe even more than the students did. We were so glad that we did it.



3) You are all Distinguished Toastmasters and have found success in your careers. Can you tell us the biggest disappointment of your career and how you dealt with it and kept moving forward?

Kiminari - Two years ago, the company I worked for decided to outsource the IT department. I was asked to move to a company that provide the IT service to my former company. The biggest disappointment was that they controlled my career and that was my biggest frustration. So in August last year, I left the company I worked for, and decided to start my own business utilizing my CDA license, plus newly acquired Anger Management Facilitator certificate.

Masako - I was laid off from work because of downsizing during middle age. It was unexpected knockout punch for me because I was highly ranked during my performance reviews every year and my work was appreciated by management. I never thought I would be laid off. What hurt even more is the reason why I was laid off. My boss told me,

“You are a married woman and your husband supports your family financially, not you. Other male workers have to feed their family so you can rely on your husband instead.”

Of course, I rely on my husband sometimes...but his words really shocked me. My career was judged not by my performance but only by the fact that I am married. At that time many Japanese senior managers still discriminated against married women. They thought that after marriage women should become a housewife.

This fact stimulated me to continue my career and develop it further. I tried to find new working place where there is no gender discrimination. At the same time, I found the place where I could share my problem with women and resume my self-esteem as a woman. It was Key Force Toastmasters Club. In Toastmasters, there is no discrimination against gender, age, race, or religion. Everyone is equal. Toastmasters gave me my motivation back

4) What challenges have you encountered as a woman in your career that have influenced how you developed?

Kyoko - I work in the engineering field, where more than 90% of people are men, and that motivates me to show how "the minority is the originality".

Grace - I remember once my father and I had a talk when I was in junior high. My father told me that a female also needs to have the ability and capability to be independent and be self-supportive. So it has never occurred to me that gender could be an obstacle in career development. As a professional in medical field, being a woman actually is a plus to me. I feel that women are more enduring, flexible, and sensitive that we are capable of providing delicate care to patients.

But I have to admit that getting married did have some influence on my career. Unlike what you have here in Japan, men usually do “單身赴任”. There were several years my husband and I worked in different cities. He worked in Taichung and I worked in Tainan. For almost 5 years, I was the one who



commuted between the two cities. Luckily, I had a very understanding boss and wonderful team members who supported me to go through that period of time.

Masako - I stopped working after I had my first baby. While I raised two kids at home I asked myself, “Are you satisfied with this life? Why don’t you go back to work?”

I struggled with the idea because working mothers were a small minority at that time and were often criticized as being less responsible than mothers raising small kids at home. It is very different from the present social consciousness.

But I decided to go back to work when my son was 4 years old and my daughter was only 1 year old. It was the first challenge in my career.

As a working mother I was criticized many times by colleagues saying,

“Why don’t you take care of your kids at home? It’s more worthwhile for a mother than having job.”

It was very disappointing and discouraging. I tried to encourage myself and ignore such negative criticism and hold onto my beliefs. I wanted to connect with society outside my family and develop my career and improve myself.

Men and women should be treated as equals as mothers and fathers, wives and husbands. Luckily my husband understood my intention and always helped me.

I continued working and met many great people and learnt a lot from my career. All of them developed me and inspired me to reach greater heights.

My story might be an old fashioned because many mothers work nowadays, but women still face difficulties in both raising kids and having job.

Even now there is the theory women should take care of the family, not only nursing kids but also taking care of aging parents instead of quitting to take care of them.

To relieve pressure on women working conditions for women should be improved more in Japanese society. At the same time family members should understand and help women to continue working. I believe we can change society through family.

5) What benefits have you received from being a Toastmaster?

Roxy - Toastmasters provides a safe environment for me to practice in and thrive; empower me to go out to the world to lead and speak competently. I spoke at conferences as a speaker, moderator, panelist, emcee, show host and more.

Kyoko - As a team leader of my laboratory group I have learnt from Toastmasters how to motivate my students and as a researcher, I learnt how to present my work effectively.

Grace - Being a Toastmaster has broadened my horizon. I absorb the extract and essence of fellow members through listening to their sharing and speeches. I have more opportunities to apply and refine my skills in communication and leadership. I stay connected with the world. And most important of all, I have made so many wonderful friends here in this big family of Toastmasters.



6) The previous president of the U.S., Barack Obama, had a habit of setting aside one hour a day to read a book. Tell us about a habit you have that helps you in your professional life.

Kyoko - Talking with my Toastmasters friends because they are not specialists in my field and so I can learn a lot about other fields.

Kiminari - Sleeping well every day and doing exercise at least once a week. From 39 years old I suffered from hypertension for 17 years. Sometimes, the high was 180 and the low was 120, but after a year of my effort, I lowered my high to 120 and the low to 80.

7) What is the toughest goal you have achieved in your career or private life and how did you achieve it?

Grace - I had the privilege to participate in the preparation and construction of a national university hospital in 1987. I was responsible for setting up the in-patient pharmacy department. As you all know, to build something new out from nothing is never an easy task. I applied what I had learned from my previous jobs in the US and in a gigantic private hospital in Taiwan, worked closely with the administration department, computer department, nursing department, suppliers, etc., as well as staff of Pharmacy Department to finally successfully set up the In-Patient Pharmacy with Unit Dose System. The success came from endless communication, cooperation, and collaboration among and within departments.

8) Who is the leader that has inspired you the most and why?

Masako - I have several mentors who have inspired me. One of them is Ann Sado Honjo, the founder of KeyForce Toastmasters Club. I was able to see women's leadership in action when I joined KeyForce. Since I have seen gender discrimination and the glass ceiling in the work place I was keen to have connect with a group of women who had same awareness as me.

KeyForce was the only Toastmasters club in Japan that was founded by women and whose membership was limited to women only at the time. I was inspired by many powerful women there and especially I the founder, Ann Sado Honjo.

She founded KeyForce with a goal of encouraging women's leadership. She is energetic, inspiring, active, always forward looking. She managed many other women's organizations and also introduced other ways we can learn self-development and self-esteem as a woman.

Through KeyForce I regained my confidence and eventually it gained a positive outlook.

In 2007 I was the Contest Chair for the Annual conference and led a team to successfully arrange a successful conference.

KeyForce is the home base for me to learn leadership skill.

The KeyForce founder, Ann Sado Honjo influenced me a lot and still keeps inspiring me now.



Roxy - Benjamin Franklin was an American polymath and one of the Founding Fathers of the United States. He was a leading author, printer, political theorist, politician, Freemason, postmaster, scientist, inventor, humorist, civic activist, statesman, and diplomat. He successfully got to the top in many areas in life using both the left and the right sides of his brain.

Kyoko - The "first" leader to inspire me was my teacher at elementary school.

9) What do you think will be the biggest changes for our working lives in the next 10 years and how will you handle it?

Grace - I think there will be less face-to-face communication because of the advancement of technology, and there would probably be no border at all. Learning would become even more important, learn to make good use of new technology; learn to screen all kinds of knowledge that are readily available at our fingertips.

Kyoko - The young population is shrinking fast and AI is becoming more important. We need to think about what essential work people should do. At my university I need to help develop students who can contribute to society, even with more AI that can take jobs away.

Kiminari - I will be in the middle of starting up my own business and making every effort to make it profitable. I will use all my knowledge which I learned from my 30 year of professional and 20 year of Toastmasters experiences with great help from my friends.

10) Do you have anything else you would like to share with the audience?

Grace - Toastmasters is a place where one can stay for life. The longer you stay, the more you'll gain.

Kyoko - Being a District Officer is a priceless opportunity to learn about society and I really recommend it to younger Toastmasters.

Kiminari - Toastmasters is all about trial-and-failure, trial-and-success. Let's not be afraid of taking your first step to get out of your comfort zone.

Masako - My Toastmasters life started by recognizing women's leadership in KeyForce Toastmasters Club. We have a strong awareness of women's leadership still now, even though we now accept men as members to improve diversity in the club. Both men and women support KeyForce's spirit of women leadership.

Not only in KeyForce, but in all Toastmasters clubs anyone can enjoy it equally without any discrimination against gender, age, nationality or religion. Toastmasters' concept and mission help women to be more confident, independent and great leaders. There are many women who who act as club and district officers.



In Japanese society the number of women's leader is still very small compared to other countries. But I believe Toastmasters' spirit of equality encourages women to become leaders and influences their social activities beyond Toastmasters' activities.

I expect Toastmasters in Japan will help improve Japanese women's social status even more and I hope it will change Japanese society to accept more women leaders in the future.

All the questions are prepared and communicated by TM Chris Cooper.



補足資料：

事前のインタビュー情報 （高山さん、梶原さん、齊藤さん、岸上さん）

高山 千晶（たかやま ちあき）

クラブ役員経験：

※すべて吉祥寺 TMC

2016.7-2017.6 会長

2015.7-2016.6 教育

2013.7-2014.6 広報

2012.7-2013.6 会員

2011.7-2012.6 書記

ディストリクト役員経験：

2017.7-2018.6 エリア 23 ディレクター

全国大会役割経験：

2017 秋季大会ワークショップ運営ロジリーダー

2014 秋季大会英語コンテスト司会、翻訳チーム

クラブ立ち上げ経験、クラブサポート経験：

2018.9-2019.4 新宿バイリンガル TMC にサポーターとして参加

1. もし貴方が入会 1 年目の自分にあって、アドバイスをしてあげられたなら、なんて伝えますか？

クラブ役員、または例会やイベントで何か大きい役割をやるにあたり、「自分にその役割を務めるだけの素質や能力があるか？」に悩んでしり込みする必要はないと今の私からなら声掛けできると思います。私自身、声を掛けられて躊躇することもありましたが、自分の中にやってみたいという気持ちが少しでも芽生えればその時がベストタイミング。早すぎる、また遅すぎることはありません。

トーストマスターズは Learn by doing ができる絶好の場。どんな経験からも学びがあり、また仲間との協力を経て成長できるので、いろんな機会に積極的に参加してほしいです。

余談ですが、先日 Pathways の Understanding Your Leadership Style（自分のリーダーシップスタイルを理解する）というプロジェクトでこんなスピーチをしました。



トーストマスターは「乾杯の音頭を取る人」という意味ですが (toast = 乾杯)、初めて聞く日本人からはパンを焼く団体だと勘違いされる可能性がありますよね (笑) (私自身、最初家族にパン作り教室に入会したと勘違いされました。)

ですがこれまで 8 年半トーストマスターとしてやってきて、私たちの活動は、実はフレンチトーストを作ることに近いのではないかと思います。パンを卵と牛乳の液に浸せば浸すほどおいしくなるように、私たちがトーストマスターズの経験を通じて多くの学びや気づきを吸収すればするほど、その価値を享受して、より良いスピーカー・コミュニケーターに成長することができます。

なので、入会したからにはおいしいフレンチトーストを作ることが私たちの使命です！臆せずさまざまな経験から吸収していきましょう ^^



2. トーストマスターズとプライベートや仕事を両立するのに大変だったことは何ですか？ そして、それをどう克服しましたか？

正直なところ、プライベートや仕事そっちのけでトーストばかりやっていた時期もありました。。メリハリとバランスが大事だと気付いてからは、基本的に日曜はトーストをやらない (役員研修会や DEC などを除き) といったルールを決めるようにしました。クラブ役員で少し疲れてしまった時期も、このおかげでリフレッシュして乗り切れた気がします。

また、自分が心からやりたいと思えるかどうかはモチベーションを保つ上で非常に大切です。頼まれたから仕方なく、という理由だけだとなかなか続かないので、役割を引き受けるときに「本当に自分からやりたいと思えるか」を問いかけ、納得してから Yes と答えるようにしました。最初は頼まれたのがきっかけであっても、それによって自分にどんな成長や楽しみの機会があるかを考えるようにすると前向きに検討できるのではと思います。

3. アップル創設者のスティーブジョブスは独創的なアイデアを生み出すために散歩することを習慣にしていたそうです。トーストマスターズで役に立つあなたの習慣を教えてくださいませんか？

例会後、相手にレコグニションをすることです。具体的には「今日のスピーチの〇〇がとてもよかった」「例会中△△をサポートしてくれてありがとう」とお礼やフィードバックを口頭、メールやメッセージで伝えます。準備スピーカーに対してだけでなく、気づいたことがあればどの役割の人に対しても書きます。

例会中に時間切れでコメントシートに書けない気づきがたくさんあるのですが、そのまま伝えずに終わるのではなく、後からどんな形でもよいので本人に伝えることで受け取った人の励みになればと思い、意識して行っています。自分の「気づきの目」を養うことと、メンバーと積極的にコミュニケーションを取ることに役立つと思います。



4. あなたがトーストマスターズで経験した中で、最も大変だったことは何ですか？ そしてそれは、あなたの成長にどう影響しましたか？

ちょっと失敗してしまった時が大変でしたが、その経験が一番自分を成長させてくれました。

特に覚えているのが、2014 年秋の全国大会のユーモア英語コンテストの司会で、プログラムを持たずにステージに上がってしまったこと（コンテストのスピーチ順を紹介するのに、プログラムの上から読み上げることができなかった）。事前に何度も練習したものの当日かなり緊張してしまい、力不足だったな・・・と感じる部分もありましたが、明るく素晴らしい仲間みなさんに支えてもらい、コンテスト自体はそれ以外の大きなトラブルはなく無事終えることができました。反省点もありましたが、楽しかった！という感動も味わうことができ、何より大きな教訓を得ました（笑）

6. トーストマスターであることでどんなメリットがありましたか？

小さい頃から人見知りで、そんな自分を変えたいという気持ちもあって入会したトーストマスターズ。人前で堂々と話すスキル、効果的な話の組み立て方、緊張していてもそう見せないコツ（笑）など、パブリックスピーキングのスキルを身に着けることができて感謝しています。

それ以外にも、さまざまなバックグラウンドを持つメンバーと知り合えたこと、仕事一辺倒でない生活を得られたことなど、たくさんのメリットがあります♪

7. トーストマスターの活動の中で、最も嬉しかったことは何ですか？ そしてそれは何故ですか？

クラブ役員をしていた時に、新入会員とゲスト向けのオリエンテーションを実施した時のことです。プレゼンターは当時の役員に加え、役員以外の、入会して日の浅いメンバーにも（体験談を）お願いしたのですが、皆が本当に生き生きと楽しそうに発表していて、それが参加者に伝わっている様子が肌で感じられて、「ああ、私はこんな素晴らしいクラブを作ったんだな」と一参加者としてすごく感動した経験があります。自分が成長できることと、人の成長を応援できることがやりがいになっています。

8. これからの 10 年後あなたはどんなになっていたいですか？

トーストをライフワークとして続けていきたいです。環境や場所を問わず、興味のある人が参加しやすい場が増えるといいなと思います。子育て層が参加しやすい工夫をしているクラブ、オンラインで例会をしているクラブなど、さまざまな取り組みをしているクラブを応援していきたいです。一方で、技術革新によりますますデジタル化が進むと思うので、活用できるものは活用しつつ、人が集まって行う例会やイベントの価値をもっと高めていけるように皆で意識できるといいですね。



11. 年上の人達に動いてもらうのに、どんな苦労がありましたか？

これは年齢・性別・トースト歴などに関係なく心がけているのですが、相手への感謝と敬意を忘れないこと。どんな意見もいったん受け入れ、自分の意見もしっかり伝えることを意識していました。クラブや活動を良くするためという共通の目的があれば、意見の相違も話し合うことと感謝を伝えることで乗り越えていけると信じています。

12. 男性の先輩方に動いてもらうのに、どんな苦労がありましたか？

性別の違いで苦労した経験は、トーストではありません。男女問わずリーダーとして活躍できる場だと感じています。

15. どうしてトーストマスターでリーダーシップを発揮してみようと思ったのですか？

もともとリーダーシップを発揮することが苦手で、そんな自分を変えたいという想いがあったと思います。どちらかというと副リーダーの立場でリーダーを支えることの方が自分に合っていると思っていて、トーストマスターズの掲げるサーバントリーダーシップに共通するものを感じたのがきっかけでした。

16. トーストマスターズに入る前のあなたはどんな人でしたか？

「青少年の主張」のような固いスピーチしか知らない大学生でした（笑）
こんなにもユーモアたっぷりのスピーチをする世界があるんだ！とものすごい衝撃を受けたことを覚えています。はじめはスピーチが上手くなりたくて入会しましたが、リーダーシップに関する経験を積めたことにもとても感謝しています。入会前は自分はリーダーには向かない性格だと思っていて、チームメンバーの前に立って旗振りをすることができず落ち込むこともありました。トーストマスターズを通じて初めてサーバントリーダーシップの考え方を知って共感し、また自分でも少しずつリーダー的な役割を果たせるようになったと思います。自分に自信が持てなかったのが、わずかでも持てるようになったというのが一番大きい変化かもしれません。

17. トーストマスターズはあなたにとって何ですか？

安心して学べる場。視野やつながりを広げられる場。

19. 今後もトーストマスターズを続けようと思いますか？ あとどの位続けようと思いますか？

ライフワークにしたいです！



梶原 千春（かじわら ちはる）

クラブ役員経験

ディストリクト役員経験

全国大会役割経験

クラブ立ち上げ経験、クラブサポート経験

など

→ 役員関連はクラブでは VPE、VPM、会場係、District officer level では Area Director。

会長経験はありません笑

全国大会では 2013 年春の名古屋大会以降、主に受付関連をメインに関わってきました。

※ここでいう「受付」とは当日の受付だけでなく、申込み page の管理・問い合わせ対応・名札作成などを含みます。

ガッツリと実行委員をやったのは以下の◎のみ

◎2013 年春 名古屋大会：日本語インタビュー 及び各チームの人員管理

◎2014 年秋 東京（代々木）大会：受付・宿泊・金曜日ツアー担当

◎2015 年春 東京（代々木）代々木大会：受付・宿泊担当

◎2016 年春 大阪大会：受付・土曜日（裏）観光・party 担当

2016 年秋 広島大会：受付 Support

◎2017 年秋 東京（日経ホール）大会：受付担当

◎2018 年春 東京（一橋ホール）大会：会計・受付担当

2019 年春 東京（船堀）大会：受付 Support

● もし貴方が入会 1 年目の自分にあって、アドバイスをしあげられたなら、なんて伝えますか？

⇒ 「Toastmasters という場所を使って、やりたい事を思いっきりやってみるといいと思うよ」です。

● トーストマスターズとプライベートや仕事を両立するのに大変だったことは何ですか？ そして、それをどう克服しましたか？

⇒ “克服”はあまりできていないです。ただ忙しくてやる事が大変だった時は

1) 優先順位をつけて高い順にやっていって、低いものはやらない、ようにする。

2) 周りにばれないようにうまくサボる or 手を抜く

という事をしてきました。

それでも、例えば全国大会の直前などで忙しい時がある時は、短期間だけ気力・体力を集中させて、全国大会終了後は徹底して休むことでなんとか乗り越えてきたように思います。



ただ、個人的には、D76 では一部の役員や人に業務が偏ったり、必要以上の対応が求められたり、時として、仕事やプライベートの時間を侵害しすぎるのではないかなと思うことがたまーに見かけます。TMC での活動には人件費が発生せず、そのため費用対効果を考慮されていないような状況に陥りやすい環境だと思います。そのような場合個人がいくらトーストマスターズとプライベートや仕事を両立しようと試みても難しい状況だと思います。周囲に相談をして、それでも改善できないぐらいの場合は、早々と放棄するのもありだと思います。

• アップル創設者のスティーブジョブスは独創的なアイデアを生み出すために散歩することを習慣にしていたそうです。トーストマスターズで役に立つあなたの習慣を教えてくださいませんか？

⇒ 習慣というほどではないですが（またトーストマスターズに役立つのかも不明ですが）、毎日湯船につかる事と週末の1日は誰とも会う予定をいれずに一人で過ごすようにしています。精神的な健康を保つのに役立つし、独創的なアイデアは健康な精神の上で成り立つと思います（笑）

• 貴方が最もトーストマスターズ影響を受けた出来事って何ですか？

⇒ うーん、これと言ってはあまりないのですが、ただトーストマスターズで会った人たちには大小様々な影響を受けています。

• あなたがトーストマスターズで経験した中で、最も大変だったことは何ですか？ そしてそれは、あなたの成長にどう影響しましたか？

⇒ 一番、大変だったのは2018年春季大会を終えた後に、強烈なバーンアウトに陥ったことです。バーンアウトになった理由は色々あるのですが…。春季大会終了後から半年近く、クラブはお休みをして、その期間は自分と向き合うことを優先しました。正直、心の平穏を取り戻し、自分と向き合うという作業は案外、難しかったです。が、おかげで、自分の人生を見つめ直し、新たな目標を見るけることもできました。今はトーストマスターズとは、いい感じの距離を保っていると思います。結果的に、今後はこれまでとは違ったトーストマスターズライフを送ることができるのではないかと、楽しみにしています。

• トーストマスターであることでどんなメリットがありましたか？

⇒ 1番は友達が増えた事です。トーストマスターズを通じて得た友人には、時には辛い時に励ましてもらった事もあり、時には刺激をもらって新たな気づきをもらったりしました。また数年前、自分の可能性を広げたくて東京での職探しをする時に、トーストマスターズを通じて東京に友人が沢山いた事が、上京する際に大きな後押しになりました。

2番目のメリットは、現在の職場での人間関係（チーム作り）に役立っていると思います。これはトーストマスターズの活動の中でも、とりわけ全国大会実行委員での経験が役に立ったと思います。なぜなら、全国大会の実行委員は、他のクラブの人（ほぼ知らない人達）とチームになりやりとりをして全国大会というプロジェクトを進めなければいけません。クラブのメンバーの人たちのように気心した人たちだけでやるのではなく、そうでない人達とどうやって全国大会という共通のプロジェクトを進めていくか、という事は、組織作りやコミュニケーションなど学ぶことが多かったです。



以下は私自身が意識している方向性なのですが、「Home で結果を出すことよりも Away で結果を出すこと」に重点をおくようにしています。

Home : トーストマスターズでいうと所属クラブ。長年一緒に活動をしているクラブメンバー。

仕事でいうと、馴染みのクライアントや馴染みのメンバーばかりの Project。

Away : トーストマスターズでいうと、全国大会やエリア、Division level でこれまであまり知らなかった人たちとの活動。

仕事でいうと、知らない人ばかりの Project。多国籍な環境だとなおハードルがあがる。。

って、感じでしょうか。

あくまでも今の私が上記でいう Home でも Away でも素晴らしい結果を出しているというわけではないし（結果を出せる用になりたいとは思っていますが）、Home をないがしろにしているというわけではありません。

ただ、Away での活動の方が目的を達成することの難易度は高いですし、Away での経験があれば Home での活動でよい成果を出すことへのハードルはぐっと下がるのではないかとと思っています。

トーストマスターズでいうと、全国大会というのは手っ取り早い Away での活動の場所だと思います。普段のクラブの活動とは全く異なる内容ですし、様々な Pressure の中、全国大会という Project を進めなければいけません。これはクラブだけの活動では得られない経験だと思いますし、実際、これらの経験が今の自分の本業でのチーム作りや Project member との関係構築にも役立っていると強く思います。

ぜひ 20-30 代の方々にもっと経験をしてもらえたら、と思っています。

- トーストマスターの活動の中で、最も嬉しかったことは何ですか？ そしてそれは何故ですか？

⇒ 嬉しかった事は沢山、あるのですが、最も楽しかったのは 2015 年の大阪大会の裏・観光ツアー & パーティーを企画実行したことです。

○当時の私の状況：転職 & 上京したばかり / エリアディレクター / 大阪大会の受付担当

○大阪大会の状況：土曜日のパーティーが早々と満席になり、パーティーに参加できない人達が沢山いた。

そのため、正式パーティーに参加できなかった人たちに声をかけて、土曜日の正式パーティー開催の同時刻に大阪観光ツアー（道頓堀 & 通天閣）と裏パーティー（お好み焼き）に行くという企画をたてました。※当時の大会委員長や正式なパーティーチームなどに伺いをたてた上で企画。私の企画に乗ってくれた人は 50 人近く集まった。

ただ、企画はしたものの、当時の私は転職したてかつ大会の受付担当かつエリアディレクターで Club Visit Report など忙しくて、裏・観光ツアー & 裏・パーティーの準備をする時間を確保することが難しく。。。そのため、大会の数週間前に参加希望者を全員、FB のグループにいれて「今、私はこーゆー状況で、この企画の準備ができません。でも、せっかく大阪に行くから、思い切り大阪を皆で楽しみたい！だからサポート募集しています」と伝えると、それぞれ、各自ができることを率先してやってくれました。お好み焼きの店を予約してくれたり、裏・パーティーでの余興の準備をしてくれたり、50 人の誘導係をやってくれたり。



あの時ほど「トーストマスターズの人達のリーダーシップはすごい」と思った事はありません。結果的に私は大まかな企画はして、ビジョンは作成をしたものの、詳細は他の人達が率先して作り上げ準備をしてくれた、という形になりました。もちろん、正式なパーティーよりも大盛り上がりな裏・パーティーになり、とても楽しかった思い出です。（という、当時の大会実行委員関係者に怒られるので、あまり言えない）

- これからの 10 年後あなたはどんなになりたいですか？

⇒ トーストマスターズ的には、10 年後は、トーストマスターズには所属はしていても、役員や実行委員などはせず、トーストマスターズ活動を続けられたらと思います。理由は 2 つ。1 つ目は、もちろん、今はあまりクラブ以外の活動に興味が無い。2 つ目は、役員や実行委員などは、できれば会員歴の浅い人達に経験をしてもらいたいと思っています。そこでリーダーシップ経験を積んだ人を多く日本社会に輩出できたら、と思っています。

自分の人生的には、私は「日本経済の発展のための歯車の一つでありたい」としています。10 年後は今よりも強力な歯車になって日本経済に貢献できたら、と思っています。

- 聴衆の皆さんにとって役立つ情報はありますか？

⇒ リーダーシップという観点からでは私が影響を受けた本や情報をシェアできたら、と思います。

1 : 宇宙飛行士関連

- ・NHK スペシャル「NHK スペシャル 宇宙飛行士はこうして生まれた ～密着・最終選抜試験～」

https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009010767_00000

- ・宇宙飛行士の採用基準

https://www.amazon.co.jp/dp/4334035701/ref=cm_sw_r_tw_dp_U_x_De4OCbB8C61DZ

- ・若田光一 日本人のリーダーシップ

https://www.amazon.co.jp/dp/B01BM8902W/ref=cm_sw_r_tw_dp_U_x_RgFUCbM2NG5JD

私が「リーダーシップ」という言葉をちゃんと意識したのは 2009 年に NHK で放送された「NHK スペシャル 宇宙飛行士はこうして生まれた ～密着・最終選抜試験～」の時だと思います。それまでリーダーシップといえば、“大勢の人たちを引っ張っていく”、“圧倒的な存在感”、“選ばれし人だけがもっている特別な能力”、すなわち、自分には全く関係のないものだと思っていました。

が、この NHK のドキュメントや本を通じて、宇宙飛行士候補者という超エリートの人たちが試験を受けていく最中での葛藤や JAXA や NASA が求める宇宙飛行士の素質というものに触れ、自分の目指す「リーダーシップ」の方向性ができたと思います。

ちなみに宇宙飛行士に求められる能力というのは、「自己管理」「チームワーク」「コミュニケーション」「チームへの配慮」「リーダーシップ」「フォロワーシップ」だそうです。



- 私がいいことがうまくまとまった記事がたまたまありました笑

https://www.academyhills.com/note/opinion/1808071genki_jaxa.html

2、失敗の本質

https://www.amazon.co.jp/dp/B00BN16XX8/ref=cm_sw_r_tw_dp_U_x_jDFUCbQDR18R5

これは戦時中の日本軍の話だけど、今のご時世でも似たようなことがありそうなの。日本人が組織論のことを考えるならば、一度は読んでおいたほうが良いと思います。

3、ブロガー ちきりんの 2011 年の記事「なんで全員にリーダーシップを求めるの？」

<https://chikirin.hatenablog.com/entry/20110927>

リーダーシップに関して一番わかりやすいし、彼女の記事で書かれている例はトーストマスターズでの活動に置き換えてもわかりやすい内容だと思います。一度、リーダーシップを取らなければいけない立場になった人と一度もなかったことのない人では、行動がまったく異なり、結果も大きく異なるよね、チームとして少しでも成果をだすためには、全員がリーダーシップをとった経験のあるチームの方がはるかに高い成果を出すよね、という話です。

- モチベーションを維持するための秘訣を教えてくださいませんか？

⇒ モチベーションを維持することは難しいです。でも、モチベーションがなくなることは、そんなに悪いことではないのではないか、と最近思います。例えば、モチベーションがなくなったという事は、それなりに目標を達成し、そして次への新しいチャレンジが始まるタイミングだと思います。

- 年上の人達に動いてもらうのに、どんな苦労がありましたか？

⇒ 年上の人たちに対して“動いてくれない”ということに対して苦労はあまりしないようにする、というか、年上に限らず“動かない”人は決して、“動かない”ので、早々と諦めることにしています。

- 男性の先輩方に動いてもらうのに、どんな苦労がありましたか？

⇒ 男性の先輩に対しても、“男性”だからといった苦労は本業でもトーストマスターズでもそんなに苦労をした経験はないです。ただ、もちろん、“動いてくれない”先輩というのはいましたが、それは私が女性で、相手が男性だからという理由で動いてくれないのではなく、“考えた方が違う”、“その人がやる気がない”などの理由だと思います。こちらも動いてくれない人にどう説得しても“動かない”ので、早々と諦めています。。



個人的には、今、年下の部下の男の子の扱いに悩んでいるので、ここはどなたかに「年下の部下の男の子の扱い方」をご教授いただきたいです笑

- 経験豊富な先輩諸氏をリードしていくのに、どんな苦労がありましたか？

⇒ これも特にありません。理由や目的をきちんと説明すれば、皆さん、ご対応いただけたと思いますし、それでご対応頂けない人に対しては、早々と諦めるという道を・・・。

- そもそもどうしてトーストマスターに入会しようと思ったのですか？

⇒ 英語で話す機会を増やしたかったからです。

- どうしてトーストマスターでリーダーシップを発揮してみようと思ったのですか？

⇒ トーストマスターズに関していえば、「リーダーシップを発揮したい」という思いよりも「今のままでは組織としてだめだと思う、だから変えたい」という思いが強かったと思います。その私の活動の過程や結果をどなたかがみて、「梶原さんはリーダーシップを発揮したねえ！」なんて言われたら「はあ、そうですかね、でもそんな風に言っていただいてありがとうございます」という感じです。

私が、全国大会と通じて「結果的にリーダーシップを発揮した、と言えるのかな」と思うのは、やはり「受付のシステムを変えたこと」だと思います。

2014 年春の全国大会までは、全国大会の申し込みはクラブ単位でメンバーの参加内容を EXCEL に記入し、実行委員に提出、料金の支払いはクラブが代表をして、実行委員の個人の口座に振込というシステムでした。

2014 年秋の全国大会で、初期の実行委委員のメンバー（数年前に PR Director をやった田邊さんや現在ストテリの児嶋ひろきくさんなど）が EXCEL で対応する受付業務から、個人がオンラインで申し込むサービスの利用を決めました。理由はこれまでの全国大会では、関わったメンバーがみんな大会終了後にやめていく、特に受付に関わったメンバーは大会当日だけではなく準備段階での激務により辞める率が高い。当時は受付担当になると 4 月の土日だけでなく、有給をとって大会準備にあてる、大会直前は徹夜続きという状態でした。その後、上記の初期のメンバーに遅れて実行委員に Join した私が受付担当となり、初のオンラインでの申込み担当者となりました。

ただ、受付のシステムはオンライン上でやることは達成できたのですが、一人ひとりの名札を事前につくり、一人ひとり名簿と名前を確認をして名札を渡すという大会当日の受付業務に関しては改善できませんでした。QR コードでの受付導入もこの 2014 年秋の段階で導入は試みましたが様々な理由と圧力により断念。

その後、なんのめぐり合わせか、全国大会の受付に何度も関わるようになり、2015 年大阪大会の実行委員になった時に、再度、QR コードでの受付を試みる。が、様々な理由と圧力により断念。。

2018 年の春季大会で、東さんに実行委員にスカウトされた時に引き受ける条件として、QR コードでの受付を導入する、ということで 2018 年に実行委員をやりました。



2014 年にオンラインでの申込みを導入した時点で、だいぶ、受付担当の負荷は改善されてはいたけれど、一人ひとりの名前 & 参加イベントが記載された名札用のデータを作成する（これが一番大変）、当日の受付名簿を作成をする、当日の受付の体制作りをする、当日の人集め（コンテストの日には誘導係も含め受付には 20-30 名は必要だった）などの業務があり、それなりに結構大変だったのですが QR コードでの受付を導入することによって、

◎事前準備の段階：睡眠時間が確保された。⇒身体・精神ともに健康的な状態で大会当日を迎えられる。

◎当日：2017 年春は当日の受付スタッフが 20-30 名必要だったが 2018 年春は 10 人くらい。

また名前チェック & 名札を手渡しということがなくなったので、一人あたりの受付にかかる時間が短縮。

⇒結果的に当日の受付業務の負担が時間的にも体力的にも軽減をすることができた。

⇒全国大会終了後に全国大会での業務が原因でトーストマスターズを辞める人がいなかった。（が、当の私が辞めかけた、というオチはある）

私は、ただ、せっかく speech をやりたくてなど様々な思いを抱えて TMC に入会した人が、全国大会に関わったばかりに TMC を辞めていく、という現状は非常にもったいないと感じましたし、実際に一緒に実行委員をやったメンバーたち（戦友たち）が大会後に離れるということを何度も経験をしたので寂しい思いをしていました。

TMC はやはり、speech だけでなくリーダーシップを経験させてくれる場所としても素晴らしい場所だと思います。この TMC を経験した人たちは、例え TMC から離れても社会やそれぞれの環境で活躍できる人を育てる場所だと信じています。それなのに、全国大会での過酷な労働という TMC の本質とは離れた内容がきっかけで、TMC を離れていくという現状を変えたいという強い思いと、これまでの経緯を知っていて、動けるのは自分しかない、ということがあったので、無事に 2018 年春にオンラインでの申込み & QR コードでの受付というミッションにチャレンジできたかな、と思います。

全国大会の受付は、役員でもないし、偉い Position でもないし、ステージにあがって拍手喝采をうけるわけでもないですけど（笑）、自分はそんなの求めているし、「全国大会での受付システムを変える」という地味で小さなことですけど、将来の全国大会に関わる実行委員のメンバーが大会後も楽しくトーストマスターズライフを続けることができる可能性をあげることに少しでも貢献できたのではないかな、と思います。

● トーストマスターズに入る前のあなたはどんな人でしたか？

⇒ 入会が 2011 年 7 月なのですが、もう 8 年も前のことなのですがまあ、基本的には今と変わっていないような気がします。ただ人前で話すのは今以上に下手だったと思います。

● トーストマスターズ以外の趣味や打ち込んでいることはありますか？

⇒ 最近は美術鑑賞が趣味の一つになりつつあります。



- トーストマスターズはあなたにとって何ですか？

⇒ 「家族のような人たちと会える場所」

所属クラブのメンバーはもちろん、これまで全国大会実行委員を通じて多くの人たちに知り合うことができました。宝物のような場所をすることができてとても幸せです。

- 今後もトーストマスターズを続けようと思いますか？ あとどの位続けようと思いますか？

⇒ 今のところ、辞める予定はないです。ほどよい距離感で今後も続けていきたいと思っています。

- トーストマスターズにこれから入会する方や、入会後間もない方へ向けてなにか伝えたいことはありますか？

⇒自分の Speech だけでなく、まずはクラブの活動、そしてクラブ外の活動をやってみようと思います。D76 では、まじめな活動だけではなく、登山やカフェ部、ゴルフ、謎解きゲームの活動などやっているので、Speech に飽きたら、ぜひそんな活動でも。ちなみに謎解きゲームは私が主催しているクラブ活動です（年に 1-2 回の活動ですが）。真面目に不真面目に活動されることをおすすめしたいです。

齊藤樹一郎 （さいとう きいちろう）

クラブ役員経験

赤羽バイリンガルトーストマスターズクラブ VPPR、VPE(代打 2 ヶ月)、会長

日吉トーストマスターズクラブ VPM

横浜ニイハオトーストマスターズクラブ SAA

ディストリクト役員経験

エリア 52 ディレクター

全国大会役割経験

2014 年 春季大会、受付取りまとめ、ホストクラブ会長

2017 年 秋季大会 ワークショップ「ずばらず DTM 取得要件を再確認する会」取りまとめ

2017 年 ディストリクト 67 大会 日本語教育訓練「スピーチネタ選びのコツ」担当

2019 年 ディストリクト 67 大会 日本語コンテストサポートチーム「桜組」取りまとめ

その他カメラ担当、受付手伝い等

クラブ立ち上げ経験、クラブサポート経験

横浜日吉トーストマスターズクラブ クラブメンター

など



1. もし貴方が入会 1 年目の自分にあって、アドバイスをしてあげられたなら、なんて伝えますか？
英語を習慣にしましょう。
2. トーストマスターズとプライベートや仕事を両立するのに大変だったことは何ですか？ そして、それをどう克服しましたか？
2014 年にクラブ会長、全国大会ホスト、会社の仕事の山場が重なったとき。
夜更かし・徹夜でアウトプットは増えないと気づき、自己流の働き方改革を始めました。
3. アップル創設者のスティーブジョブスは独創的なアイデアを生み出すために散歩することを習慣にしていたそうです。トーストマスターズで役に立つあなたの習慣を教えてくださいませんか？
早起き。深夜に仕事をするとう判断力が鈍り、堂々巡りしてしまうので「休息が先」を心がけています。
4. 貴方が最もトーストマスターズ影響を受けた出来事って何ですか？
渡辺さんという先輩との出会い。あちこちに連れて行かれて大変でしたが、今につながる多くの出会いに導いてもらいました。リラックスしたムード作りについても学びました。
5. あなたがトーストマスターズで経験した中で、最も大変だったことは何ですか？ そしてそれは、あなたの成長にどう影響しましたか？
会長とエリアディレクター経験。「笛吹けど踊らず」の経験からリーダーの気持ちがわかり、協調性を学びました。
6. トーストマスターであることでどんなメリットがありましたか？
プレゼンの進歩。コンテストはダメでトーストマスターズ内で上手とは言えませんが、技術説明・昇格試験・社内公募面談など、仕事に生きています。
7. トーストマスターの活動の中で、最も嬉しかったことは何ですか？ そしてそれは何故ですか？
メンターとメンティーでクラブの「もう一度聞きたいスピーチ」に選ばれ、一緒にスピーチをしたこと。自分自身、メンティーそれぞれの成長を実感しました。
8. これからの 10 年後あなたはこうなっていたいですか？
お金持ちになってトーストと趣味に専念したい。
9. 聴衆の皆さんにとって役立つ情報はお持ちですか？
クラブ役員、ディストリクト役員は、仕事が疎かになるくらい大変だったとしても、直後に仕事に必ず生きてきます。



10. 年上の人達に動いてもらうのに、どんな苦労がありましたか？
クレームの多い方、細かな指摘をくださる方は、きちんと応じることで、後からとても力になってくれました。私はツメが甘くミスも多いため、年上に限らず目ざとい方のサポートを必要としています。
11. そもそもどうしてトーストマスターに入会しようと思ったのですか？
転職を考えた時に、プログラマとしての技術以外のスキルがほしいと思ったから。
15. どうしてトーストマスターでリーダーシップを発揮してみようと思ったのですか？
自発的に手を上げたことはないですが、後から振り返って、良い経験になったことばかりです。
16. トーストマスターズに入る前のあなたはどんな人でしたか？
週末は寝ている人
17. トーストマスターズ以外の趣味や打ち込んでいることはありますか？
音楽。トーストマスターズで仲間や発表の場を得て、遠ざかっていた趣味で楽しんでいます。
18. トーストマスターズはあなたにとって何ですか？
押し寄せる経験。
19. 今後もトーストマスターズを続けようと思いますか？ あとどの位続けようと思いますか？
生涯続けますが、DTM を取得することが出来たらサバティカルしたいです。
20. トーストマスターズにこれから入会する方や入会后間もない方へ向けてなにか伝えたいことはありますか？
コミュニケーションやリーダーシップが苦手な人ほど伸びしろが大きく、入会時より垢抜けて若返って見える方が多いです。

岸上 友香 (きしがみ ゆか)

1. トーストマスターであることでどんなメリットがありましたか？

→意識の高いメンバーとともに切磋琢磨しながら、失敗を恐れずに練習できる場が常にあること だと感じます。
仕事では日々本番で失敗できないので、とても有り難い場だと思います。
トーストマスターズの活動や教育プログラム、DCP や DTM などの達成は、あくまで仕事や生活を、より豊かにしたり、成長するために活用していくシステムだととらえていますが、活動そのものが役立つだけでなく、刺激的で楽しいことが多く、モチベーションにつながることも、メリットの1つだと思います。



2. これからの10年後あなたはこうなっていたいですか？

→ 歌って踊れる、ノリノリなリーダーになりたいです。



上列左より

桃井信子さん、藤原麻衣子さん、松本真紀さん、齊藤樹一郎さん、梶原千春さん

下列左より

高山千晶さん、岸上友香さん



YOU

**You are the leader of your life.
Which door will you open tomorrow?**

Sumiko Futana, DTM
2019 Annual Conference Chair

Taka Miyawaki, DTM
2019 Annual Conference Project Leader

人生のリーダーはあなた。
さあ、明日へのドアを開けよう！

2019 全国大会 大会委員長
二名 澄子 DTM

2019 全国大会 プロジェクトリーダー
宮脇 貴英 DTM





あとがき

全国大会金曜日の企画をタカさんからいただいたのは、半年前の2018年の11月でした。ディビジョンCで開催した、リーダーシップ・ネットワーキング・イベントが好評だったため、全国大会でもお願いできませんか？という依頼を、クリスと共にいただきました。当初は、ディビジョンD主催の全国大会で、私達が企画、運営するには遠慮がありましたが、タカさんからの押しの一言でお引き受けすることを決めました。人選は、思い通りに選出させていただきました。自分が話を聴きたいと思うリーダー、皆さんにぜひ聴いてもらいたいと思うリーダーの方々に、一人一人お話しをしてお願いしました。リーダーの皆さんには無茶振りだったことと思いますが最終的には、皆さん快く引き受けてくださいました。深く感謝しています。

昨今、テクノロジーの進歩、コミュニケーションの多様化、人口統計上の変化などから、私たちの周りでは、リーダーシップが大きく変わろうとしています。新しいリーダーシップは、みんながヒーロー、みんなが輝く、みんなが幸せな世界を実現するリーダーへと変貌を遂げ、求められるコンピテンシーも変化しています。そのリーダー像を、トーストマスターズの機会を通じて、既に実践されてきた方々にお話を伺い、これからのリーダーシップを全国のトーストマスターズの皆さんと一緒に考えてみたかった、というのが第一部の主旨でした。登壇者の皆さんには、プロジェクトを進めていく際のコミュニケーションの取り方、ケアリングの仕方、実現への情熱、仲間への意識、など、これからのリーダーシップのあり方について、多くの要素を語っていただくことができました。示唆に富んだ内容だったことと存じます。

また、二部のパネルディスカッションでは、世界的にも飛び抜けて女性リーダーの少ない、また女性リーダーへの理解度に乏しい社会である日本において、これまで女性リーダーとして経験してこられた方々のお話を伺い、あらためて皆さんと一緒にこの課題を考えてみたかったという趣旨でした。台湾を代表するリーダー、グレース・シーさんを始め、ベトナム難民としてアメリカに渡り英語も話せなかったところからシアトルで実業家になられたロキシー・スティンプソンさん、20年以上も前から日本で女性リーダーシップを実践してこられたキーフォース・クラブを代表して黒田雅子さん、その他、過去ディストリクト・ディレクターを務められた北村恭子さん、東公成さんにお話を伺うことができました。

スピーチでは、スピーカーとしてもファイナリスト、リーダーとしても職場、トーストマスターズの現場でリーダーシップを発揮されている松本真紀さんをお願いをさせていただきました。

今回このような機会をくださり、クリスと私の意向を尊重し支援いただいた二名さん、タカさんにはあらためて深く御礼を申し上げます。また、急の依頼にも応じてくれた桃井信子さんには心より感謝しています。

リーダーとしての多面的な要素を一度に直接伺うことができたこのパネルディスカッションが、皆さまご自身の新しい可能性を見つけるきっかけにいただけたなら、幸いです。

松田行正

2019-2020 クラブ担当ディレクター

2018-2019 ディビジョンCディレクター



**2019 District 76
Annual Conference**

金曜スペシャル! Friday Special!

**満員御礼
Sold Out**



**リーダーズ・フォーラム
Leaders' Forum**

19:00 開場 Open

19:30 開演 Start

21:30 終了予定 Close

席は満席のため、
前から詰めて
お座りください。

Please have
your seats from
the front.

チケット総販売数 114 枚



2019 District 76 Annual Conference